

# **膝の痛み・変形性膝関節症**

## **臨床編 その2**



## ❖はじめに

### 【推奨環境】

このレポート上に書かれている URL はクリックできます。できない場合は最新の AdobeReader をダウンロードしてください。(無料)

<http://www.adobe.co.jp/products/acrobat/readstep2.html>

### 【著作権について】

このレポートは著作権法で保護されている著作物です。  
下記の点にご注意戴きご利用下さい。

このレポートの著作権は作成者に属します。

著作権者の許可なく、このレポートの全部又は一部をいかなる手段においても複製、転載、流用、転売等することを禁じます。

このレポートの開封をもって下記の事項に同意したものとみなします。

このレポートは秘匿性が高いものであるため、著作権者の許可なく、この商材の全部又は一部をいかなる手段においても複製、転載、流用、転売等することを禁じます。

著作権等違反の行為を行った時、その他不法行為に該当する行為を行った時は、関係法規に基づき損害賠償請求を行う等、民事・刑事を問わず法的手段による解決を行う場合があります。

このレポートに書かれた情報は、作成時点での著者の見解等です。著者は事前許可を得ずに誤りの訂正、情報の最新化、見解の変更等を行う権利を有します。

このレポートの作成には万全を期しておりますが、万一誤り、不正確な情報等がありましても、著者・パートナー等の業務提携者は、一切の責任を負わないことをご了承願います。

このレポートを利用することにより生じたいかなる結果につきましても、著者・パートナー等の業務提携者は、一切の責任を負わないことをご了承願います。

## もくじ

1 : 変形性膝関節症から首痛、そして足の冷え.....	4
2 : モダンバレエで足首捻挫、かばっているうちに膝の痛みも.....	11
3 : 鍼灸で改善できなかった膝痛が筋力トレーニングであっさり.....	16
4 : 膝痛で正座ができない.....	20
5 : バレエの舞台前に膝を痛めて踊れない.....	24
6 : 治療した翌日は快調に！！.....	31
7 : バレーボールで膝痛になり正座ができない.....	34
8 : 自転車事故で正座ができなくなる.....	39
9 : 久しぶりのバレーボールで両膝痛.....	42
10 : 30年以上前の手術が原因の膝痛.....	46

## ❖ 1 : 変形性膝関節症から首痛、そして足の冷え

70代 女性

1年前に、初めて来院された患者さん。

このときの主訴は、何年も前から足がつって困るということ。

そして、その原因には、手術しか治る方法がないといわれていた膝であった。

病院では、変形性膝関節症と言われ、「なるべく早く手術をしなければ大変なことになる。」と言われ続けていたらしい。

しかし、この膝、30年以上も前に痛めてから、痛み方は変わっていないとのこと。

痛みが変わらなければ、急いで手術する必要もないかと、自己判断で今に至っているらしい。

私は、このような経過を聞いてビックリした。

なぜなら、この膝痛、単なる運動不足で筋力低下による痛みだけであったからだ。

しかし、私以上に本人の驚きは想像を絶するものであっただろう。

何十年も整形外科に通い、手術以外治る方法がないと言われて、医師からはなるべく動かさないように言われ続けてい

たのが、当院にきて急展開。

「これは、単なる筋力不足で、筋肉をつければ簡単に治りますよ！関節は若いまま、何の問題もないから安心して運動してください。」

私のこの一言で、この1年間、スクワットなどの筋力トレーニングを続け、膝痛は完全に忘れるほどになっているのだ。

そして、久しぶりの来院。

今回は、20年前に、ヨガで首を痛めて以来、首から肩にかけて痛みが取れないとのこと。

確かに、これまでは膝からふくらはぎにかけて、集中して

治療を行っていたため、首の方はしっかり診ていなかった。

しかし、この方、何十年もの間、苦しんできた症状がありすぎなのでは？

まだまだ、昔の症状が出てきそうであるが、今回は、この首をしっかり治そうとしているところで、

患者「そういえば！」

また、何か症状を思い出したか？

「昔からそうなんですけど、足首から上 15cm ほどの所が、常に冷えてるんですけど、これはさすがに治らないですよね？」



やっぱり来たあ！！！！

こういうパターンも、臨床を多く続けていると良く出てくるパターンであるが、意外と私は好きなパターンである。

つらいところを思い出すということは、もっとつらい症状は消えてきたということ。

一つ一つしっかり解消していかなければ、思い出そうと思っても、一番つらいところが意識を支配しているため、他の症状を思い出す余裕がなくなる。

成果が出てきたことで、信頼度が上がり、安心して悩みを言ってもらえるようになる。

このような関係が、臨床では一番大切なことである。



この方は、元々胃腸が弱く、身体の芯が冷えている。

しかし、本人の自覚は、足首だけであった。

そのため、冷えが溜まりすぎて、いろいろな症状を作ってしまったようである。

従って、筋肉量を増やすことと、お灸で身体の芯を温めることを、同時に行っていくことで、治療成績が上がっていく。

もっと、いろいろな症状を思い出すかもしれないが、根本の冷えがなくなれば、いつの間にかそのような症状も消えてなくなるだろう。

今まで、膝のことを考え、なるべく歩かないようにしてい

たのが、今は制限なく歩き回るようになり、疲労は溜まりやすくなったが、元気バリバリで毎日を楽しんでいるようである。

このような患者さんが一人でも増えるように、頑張っていきたいと思う。

## ❖ 2 : モダンバレエで足首捻挫、かばっているうちに膝の痛みも

30代 女性

3か月前に右足首を捻挫。

整形外科に通っているものの、全く痛みが取れない。

通常、捻挫の治療にここまで時間がかかることはない。(通常、長くとも1ヶ月間)

しかし、捻挫以外の所見は認められないとのこと。

足首をかばっているためか、両膝も痛くなっているらしい。

なぜ、こんなにも捻挫に時間がかかっているのか？

話を伺ってみると、趣味で（かなり本格的）モダンバレエをやっていて、来月の舞台に合わせて、稽古もラストスパートに入っているとのこと。

当然のように、捻挫の足で、ずっと踊ってきたらしい。

そして、最近では、つま先で立つことさえできなくなっているとのこと。

ということは、稽古の度に、捻挫をひどくしているということである。

実際、足首を触ってみると、皮膚だけでつながっているような錯覚を起こしてしまうように、安定感が全くなくなっ

ている。(靭帯が伸びきっているということ)

これでは、痛みが治まるわけがない。

まずは、足首を動かしながら、どの辺りまで、かばった動きをしているのかチェックしていくと、両膝はもちろんのこと、逆側の親指に最も反応が強く現れている。

このような現象は非常に珍しいため、詳しく聞いてみると、何年か前に、親指の骨の下にある小さな骨を（種子骨）痛め、無理して踊っていたら、その骨が粉碎してしまい、そのままの状態ですぐに踊っているとのこと。

左脚の痛みをかばって踊っているところに、右足首を捻挫してしまっただけ、両膝にも痛みが出ているようなのだ。

どこまで、改善できるかわからないが、まず整体でかばっていた筋肉をリラックスさせ、本来の骨格へ戻す作業を始める。

そして、右足首と左母指の動きを改善するため、鍼を行う。

これで、立ち上がってもらおうと、一応つま先立ちはできるようになった。

しかし、そこから身体を捻ることはできないようである。

(バレエには、必ず必要な動作)

この動きを、テーピングでできるように足首の補助を行い、再度立ち上がってもらおうと、大分つらさが抜けたとのこと。

後は、稽古中にどのような動作で痛みが出、どの位悪化し

てくるかで、今後の治療方法を微調整しなければならない。

難しい症例だが、やりがいのある症例である。

期限を設けられた（今回は舞台に向けての治療期間）治療  
というのは、治療技術の試験のようなもの。

治療家の腕の見せ所である。

このような足の状況でも、本番までには、踊れるようにし  
なければならない。

頑張らねば！！



### ❖ 3 : 鍼灸で改善できなかった膝痛が筋力トレーニングであっさりと

30代 女性

半年前から右膝が痛くなり始め、日々悪化してきて、1か月前からは、全く曲げ伸ばしできず、痛みで寝ることもできないということで来院。

病院で診てもらうが、注射を打っても鎮痛剤を飲んでも変化ないとのこと。

原因は、7歳と4歳の育児で痛めたのだろうということである。

ベッドに横になってもらうが、やはり膝を伸ばしても曲げても、痛みが強くじっとしてられない。

鍼で痛みを散らすのが、ほんの少ししか効果が出ない。

銀粒を膝周りに貼ると、少しだけじっとしていただけるようになり、お灸をするとまた痛みが広がるという感じで、一進一退を繰り返す。

「なぜ、これほどの痛みが現れてしまうんだろうか？」(悩)  
打つ手がなくなりつつも、何か方法はあるはずと、模索しながら、徹底的に身体全体をチェックしていく。

すると、太ももの太さが、左右でかなり違うことを発見。

全くじっとすることができなかつたので、じっくりと左右差を診ることができなかつたが、打つ手がなくなりつつあるため、左右差からヒントを得ようと、片脚ずつ筋肉量を慎重にチェックすることで、その違いを把握することがで

きた。

痛む右側の太ももの、前側と内側の筋肉がげっそりと痩せていたのだ。

そこで、その筋肉へ押圧（手掌を使い筋肉に対して、直角に圧を加える方法）を加え、筋肉に力を蘇らせる方法を取った。

太もも全体にふくらみが出てきたところで、脚を動かしてもらおうと、嘘のように楽になっている。

そこで、自宅でも、太ももの筋力トレーニングを実施してもらうことにした。

そして、3週間後の来院時には、高校の同窓会で、バレーボ

ールをやって、全身筋肉痛だという。

私「へっ！膝は大丈夫だったんですか？」

患者さん「はい、先生に教えてもらった運動をやってたら、次の日からかなり楽になって、バレーボールした時は全く膝の事を忘れてました。」

ということだった。

年齢的には、急激な筋力低下を起こすような年齢ではないが、育児をしていると疲労が溜まり、知らない間に筋肉が過労状態に陥ることがある。

育児というのは、本当に体力がいるものであり、母というのは大変な仕事であることを、教えてくれる症例でした。

## ❖ 4 : 膝痛で正座ができない

30代 男性

1週間ほど前から、正座をすると膝の裏側に痛みが出るようになった。

特に外寄りの部分が両膝ともに痛むという。

原因は全くわからないとのこと。

ただ、2週間ぐらい前から、週に3回ほど、3km位のジョギングを始めているということである。

このような情報を元に身体を診ていくと、太ももの後ろ側で特に内側の、筋肉がかなり隆起している。

これは、かなり走り込まなければつかない筋肉であるが、  
この方は、ジョギング以外に走ることはないらしい。

ということは、元々走り込むようなスポーツをやっていた  
のでは？と思い、聞いてみると、やはり元陸上部であった  
という。

このようなことから考えられるのは、しばらく走っていな  
かった筋肉が、急に走り始めて、元の太さにすぐ戻った部  
分と、

筋力低下が激しく、ジョギングについていけなかった筋肉  
が、存在したのだろう。

そのように考えれば、今回の膝痛が理解できる。

そこで、膝周りの筋肉で、疲労を起こしているところを、お灸で整え、さらに、炎症反応には、銀粒を貼り、正座をしてもらうことに。

すると、何度も、正座をしたり膝を伸ばしたりを繰り返し、笑顔で、

「ないです。痛みがないです。取れてるみたいです。」

と、不思議そうに喜んでいた。

ただ、これから生活していくうえで、筋力を上げていくのか、落としていくのかの選択が難しいところ。

筋力を上げ過ぎると、デスクワークの邪魔となり、筋肉を落とし過ぎると、急に動き出す時の痛みが起きやすくなる。



このようなことを、細かく説明し終了とした。

この方は、元々、走るのが好きなようなので、無理のない程度に走り続けたいとのこと。

筋肉は動かし続けている以上、老化を起こすことはない。

いつまでも、走り続けてもらいたいものだ。

## ❖ 5 : バレエの舞台前に膝を痛めて踊れない

30代 女性

バレエの舞台を1週間後に控えている患者さん。

毎年舞台直前にボロボロの状態で見られるのだが、今回は、それほどひどくない状態で、1か月ほど前から調整のため来院していた。

ところが、舞台を1週間後に控えた稽古中、左膝をかなり捻ってしまったらしい。

そのため、左足一本で立つことが不可能な状態に！

しかし、舞台は1週間後。

左足一本で立つどころか、左足一本で身体を回したり、飛んだり着地したりしなければならない。

通常であれば、ゆっくりと炎症を取っていき、炎症が治まったら軽めに動かしていき、徐々に筋力を戻していく。

しかし、今回はそうゆっくりはしてられない、まずは、膝の曲げ伸ばしを最大にできるところまでは、この1時間で回復しなければ、まず1週間後に踊るのは不可能だろう。

そこで、整体を行いながら、関節の動きを銀粒で広げていくことにした。

通常は、鍼で行う操作であるが、少しでも早く回復させる

ための応急処置である。

足の指から始め、足首、膝という順に動かす範囲を広げていく。

かなり、動く範囲が広がったところで、半月板と靭帯の負担を減らすために、テーピングを貼り初日の治療を終了した。

この時点で、深い屈伸を何とかできるようになっていた。

後は、舞台の前々日の再来院で、どこまでできるかだ！！

そして、再来院の日。

かなり痛みはひいたが、まだ片脚で回転することはできな

いとのこと。

さらに、階段の上り下りでは、どちらもかなり痛みが出るらしい。

当たり前のことだが、今日中にどちらの症状も取り除かなければならない。

今回は、膝をかばって動いている部分から修正していくことにした。

かなり、腰の方に負担がかかり始めているので、その部分をてい針（刺さない鍼）で調整していく。

膝の動き自体は改善できているようなので、再度銀粒で動きを調整し、テーピングを貼り、階段昇降をベッドで代用

し、さらに片脚で立って捻ってもらったりした。

どちらも大丈夫そうなので、本番前にさらに補強用のテーピングを指導し、終了とした。

これで、無事本番を乗り切れますように！！

と、願いつつ、1週間後。

笑顔で登場！！

私「無事？」

患者さん「はい、無事踊れましたあ！！」

と、言った瞬間、自然と二人で笑顔の拍手。(パチパチパチ)

良かった良かった。

そして、今回、踊った後に、新たな怪我をしていないか聞いてみると、

「それが、不思議なぐらい、今までで最高の踊りをしていてみんなに驚かれました。しかも、いつもだと翌日から、全く身体が動かなくなるのが、今回それがないんです。だからどこが悪いっていう感覚もないんです。」という。

そこで、整体をしていくと、全体的にはそれほど問題なさそうであるが、腰が怖い。

しかも、「滑っている可能性がある。」と言った瞬間、

「あります。私前に整形外科へ行っていた頃、腰椎すべり



症があると言われたことがあります。」

という、膝の捻挫よりも大変な状態になって戻ってきてしまった。

しばらく、舞台はないので、「腰はゆっくり時間をかけて診ていきましょう。」ということになった。

やりがいのある仕事をさせていただいたが、この患者さんの身体がどこまでボロボロになっていくのか？

スポーツを真剣にやっている人ほど、この壁にぶち当たるものだが、少しでも手助けできればと思っている。

## ❖ 6 : 治療した翌日は快調に！！

60代 女性

学生時代から現在まで、バレーボールの現役を続けてきている。

体力があるためか、身内だけでなく、近所の方の介護までも手伝ううちに、膝と腰を痛めてしまった。

病院に通い続けながら、何とかバレーボールを続けてきたが、知人の紹介で当院へ通い出し、鍼灸と整体の治療を4回ほど行い、完全に症状が消失していた。

今回2か月ほど、間隔が空き、久々の来院。

身内の看病で、バレーボールをする時間もなく忙しかったのと疲労で、全身が固まっているとのこと。

整体のみで、全身を調整し終了。

その1ヶ月後の来院。

「先生、ビックリ！この前、治療してもらったでしょ？あれで調子良くなったもんだから、次の日久々に練習に行ったの。そしたら、練習じゃなくて試合でね！！練習もしばらくやってなかったから、出る気なかったんだけど、無理やり出されて3試合もやっちゃったの！試合終わった後に、全員がっらいとか痛いとか言ってるのに、久々の私は、全くっらさも痛さも感じずに、次の日も筋肉痛にすらならなかったの。これって、やってもらったからでしょ？」

と、一気に話していただいた。

このようなことも良くあるのだが、前回は、まったく練習に行ける状況ではなさそうだったので、運動用の身体にしたつもりはなかったのだが、前回までにしっかり調整してあったのがよかったのであろう。

元々持っていた腰痛も膝痛も、最近では全く忘れてしまったようなところもあるし、いつまでも、元気でバレーボールを続けていってもらいたいものである。

## ❖ 7 : バレーボールで膝痛になり正座ができない

40代 男性

2か月ほど前から、娘の手伝いでバレーボールを始め、段々と両膝が痛くなる。

今では、膝の曲げ伸ばしがつらく、正座が全くできなくなっているとのこと。

この患者さん、元々学生時代にバレーボールを経験していたため、若い時と同じように少々無理をしてしまったということである。

まず、身体全体をチェックすると、明らかに膝周りの筋力

低下が伺える。

これでは、痛くなるのも当然である。

まずは、動き過ぎて固まってしまった筋肉をほぐすために、  
運動針を行う。

これは、膝の動きを確認しながら行う鍼の方法で、動きにくい動きに対して鍼を打つことで、改善していく方法である。

この運動針を、膝の動きが、スムーズに動くまで続ける。

通常の可動域まで、痛みなく動けるようになったところで、  
立ち上がってもらい屈伸運動をしてもらう。

すると、スムーズに下までしゃがめたことに本人が驚いている。

しかし、体重がかかると痛いとのこと。

そこで、その痛くなる場所へ銀粒（銀の粒をシールで貼っておくもの。鍼の代役となる。）を貼り、もう一度屈伸してもらおうと、体重をかけても痛みが出ないことを確認できた。

「こんなに簡単に症状が改善できるのか？」と、啞然とした表情をしていたが、要は、急に運動をやりすぎたための、筋肉痛が重なり、関節が動かなくなっただけである。

炎症がひどいわけでもなく、筋肉が切れたり、靭帯や半月板を痛めたわけでもない。



筋肉の固さをゆるめるように、ストレッチを速めて行ったようなものである。

痛めたばかりの筋肉であれば、マッサージや鎮痛剤やら、余計な刺激が人体に入っていなければ、改善するのも早いものである。

また、筋力低下を起こしている状態で、急激な運動をしてしまえば、筋肉痛が出てしまうのは、誰でもわかること。

しかし、筋肉痛が出れば、筋肉が強くなると勘違いしている人が多い。

これは、大きな大きな間違いである。

筋肉痛を起こした筋肉は、太くなるのは早いですが、決して柔

らかい筋肉にはならない。

太くて固い筋肉ほど怪我を起こしやすいもの。

この患者さんは、大怪我になる前に対処できたので良かったが、このような流れで運動をしてしまうと、大抵大怪我をしてしまうものだ。

久しぶりの運動は十分に注意してもらいたいものである。

## ❖ 8 : 自転車事故で正座ができなくなる。

60代 女性

5か月前に、自転車で転び、膝を強打。

それから、どんどん腫れと痛みが強くなり、整形外科や接骨院、整体へ通うが全く効果なし。

4ヶ月後には、娘の出産がカナダで行われるため、長期滞在が必要とのこと。

そのためには、飛行機での長期移動に耐えられる体を作らなければならないと、何とかしなければならぬと必死の思いで来院。

腫れは、膝だけでなく、足首にまで広がっていて、ほとんど動かすことができない状態である。

まずは、腫れをお灸でひかし、関節の動きを少しずつ鍼で広げるような治療を、6週間連続で週に一回のペースで治療を行った。

その甲斐あってか、痛みも腫れもなくなり、正座もできるようになった。

その後は、1か月に1度のペースで調整を行い、カナダへ向かった。

現地で、悪くなった場合を想定して、お灸の仕方も覚え、お灸を手荷物にカナダへ向かったが・・・。

約半年ぶりの来院。

「先生、おかげ様で、膝は全く痛くなりませんでした。向こうにお灸を持って行ったけど、全くやる必要もなく済みました。ありがとうございます。今回は2週間前に、腰を痛めたので診てもらいたくて来ました。」

ということで、実際膝のチェックをしてみても、ほぼ問題ない状態であった。

このように、長期的に間が空いた後の、経過報告というのは、非常に勉強になるし、良い報告であれば、非常に嬉しいもの。

このような報告をたくさん受けれるように、これからも頑張っていきたいと思わせてくれた症例でした。

## ❖ 9 : 久し振りのバレーボールで両膝痛

40代 男性

娘が学校でバレーボールを始めたのを切っ掛けに、元々バレーボールを経験していたこともあり、18年振りに娘の手伝いがてら、プレーすることに。

ほとんど準備をしない状態でプレーしたため、筋力低下の影響もあり、両膝が痛くなった模様。

少しでも膝を曲げると、痛みが走るため、ほとんど曲げ伸ばしができない状況とのこと。

まずは、膝の動きを少しずつ改善するために、運動針（鍼）を刺しながら、筋肉を動かし、その刺激で筋肉を緩めてい

く方法) を行う。

少し可動域が広がったところで、少し時間をおき、再度同じことを繰り返す。

体重をかけなければ、ほぼ通常通り動けるところまで改善。

これで、立ち上がってもらおうと、かなり軽くなり、痛みも感じない。

しかし、屈伸運動をすると、深くしゃがんだ時には、痛みが出るとのこと。

そこで、その痛みを取るために銀粒を貼ると、何なく消失。

一応、現時点でのつらさはなくなった。



しかし、またバレーボールを行えば、筋肉痛が起こるはず。

その予防策として、膝周りの筋力トレーニングを指導した。

さらに、運動後には、疲れた筋肉に冷感スプレーをかけ、その後は、鎮痛・消炎効果のある軟膏を塗るように伝えた。

数週間後電話があり、

「おかげ様で、全く痛みが出なくなりました。冷感スプレーと軟膏がこんなに効果あるとは思いませんでした。ありがとうございます。また、怪我したときにはお願いします。」

と、元気な声で報告があった。

どのスポーツでも、自分に見合った運動があるはず。

現時点での筋肉量や柔軟性に合わせた運動ができれば、身体も心もスッキリするものだが、大抵の場合、やりすぎてしまう。

その結果、筋肉痛となり、痛みに苦しむだけでなく、固い筋肉を作ってしまう、怪我のしやすい身体となってしまうもの。

健康のためにも運動はしておいて損はないが、やり過ぎは怪我や病気の元となる。

適度な加減が重要だが、そこが難しい。

とりあえず、筋肉痛が出たらやり過ぎたと思うことが、疲労をためないコツではないだろうか？

## ❖ 10：30年以上前の手術が原因の膝痛

60代 女性

2週間ほど前から、急に膝が痛くなり、曲げ伸ばしをすることができなくなり、階段は全く上り下りできなくなった。

周りの話では、「年齢的にも変形性膝関節症になってもおかしくないし、人工関節を入れないといけないかもね！」などと、脅されて来院。

本人としては、年末に冷えている場所での作業があり、そこで冷やしたことが原因ではないだろうか？とのことだった。

まず、動きを確認すると、本当に体重をかけられないほど

痛そうで、曲げ伸ばしはとてもできそうになかった。

うつ伏せで、全体のチェックを行うと、意外と全体的に整っている。

そして、膝周りを押しても何ともない。

「これだけの痛みを抱えているのに、押して痛みがないということは、関節の問題ではないのではないだろうか？」と、思いつつ少し膝を曲げようとする、飛び上がるように痛がる。

これでは、関節や筋肉をチェックすることができない。

あまりにも痛みが強く、原因も患部も不明な状態であれば、いきなり膝へ刺激を入れるのは危険すぎるため、膝以外の

問題点をチェックすることにした。

そこで、歪みはないが左の肩の筋肉に異常緊張があることが判明。

これは、胃の問題が現れていることが多い。

さらに、胃のツボを確認すると、やはり胃の異常はあるようだ。

しかし、脈には出ていない。

とすれば、慢性的に胃が悪いということである。

実は、昔から胃炎を繰り返していて、胃カメラを飲むと、どす黒くなっていると必ず言われるらしい。

それほど、胃を痛めていることがわかった。

ということは、膝の痛みも胃から来ていると考えられる。

そこで、仰向けになってもらい、お腹を触ると、胃のツボが異常に固まっている。

直に様子を伺うため、お腹を診せてもらおうと、お腹の真ん中に大きな手術の跡があり、その途中にある胃のツボのところ、無理やり縫い合わせたようになっていて、固くなっていることがわかった。

ほぼ、これが原因であると確信しながら、お腹と足にお灸を行うことにした。

すると、これだけで、嘘のように膝の痛みが取れてしまっ

ただ。

あとは、このお腹と左肩に、温湿布を貼るよう指示し終了とした。

そして、4日後の再診時には、笑顔で現れ、「おかげ様で、ほとんど痛みがなくなりました。」と、しっかりとした足取りであった。

お腹の手術は、30年以上も前のもの。

しかも、出産直後に胆石、卵巣のう腫、盲腸の一斉手術だったこともあり、縫合手術も難しかったのだろう。

しかし、その影響が、今になって現れたってことは、蓄積されてきた固さもすごいということが理解できるだろう。



その固さの中で、最も強かった左肩とお腹は、温湿布でかなり緩んでいる。

そのため、今回は、整体により全てのバランスを整えることを行った。

これで、かなり楽さもアップしたようで、「本当に老化じゃなかったんですね！」と、喜んでいた。

このように、何年も、何十年も前に行った手術の影響で、さまざまな症状に苦しんでいる人がいる。

ところが、手術を執刀した医師が、そのことに気付いてないことが多い。

というよりも、ほとんど知ることがないと言っていいのか

もしれない。

どうせ手術をして、元気になるのなら、一生元気な身体であってほしいのが、患者心理ではないだろうか？

医師がわからないのであれば、鍼灸師に任せればいいのだが、この現状を知らないことにはどうにもならない。

医療問題とは、どこまでも深く広いもののようなのである。

# もっと**健康**になるために

もっと詳しい健康情報をご希望の場合には、下記から、  
全102ページ、販売価格1,980円

## あなたの症状が治らない9つの理由

というレポートを**無料でプレゼント**させていただいています。  
このレポートを請求していただいた方は、健康に関する情報が、ご登録のメールアドレスに、毎日届くようになります。  
このレポートとメルマガだけでも、十分にあなたの症状を改善するヒントを得られるような内容になっています。  
こちらから無料で請求できますので、積極的にこの機会を利用してみてください。

レポート請求はこちらをクリック



QRコードからも請求できます。



作者：キュアハウス鍼灸治療院 院長 中村幸生

メールアドレス：info@curehouse.jp

★共に健康になり幸せな人生を歩むための学びをしていきませんか？：「キュアハウスの健康幸生塾」

<http://curehouse.jp/blog/kouseijuku/>

★どの健康情報とも全く違う視点であなたの症状を取り除く教材がそろっている：「キュアハウス健康情報館」

<http://curehouse.biz/>

★原因不明の症状を徹底的に解明し改善法を手に入れることができるブログ：「原因不明の痛みや病気を改善するたった3つの秘訣」

<http://blog.livedoor.jp/curehouse/>

★病院や治療院に何度通ってもなかなか治らない症状を専門とする鍼灸整体治療院：「キュアハウス鍼灸治療院」

<http://www.curehouse.jp/>



このレポートは、医療に頼らずに、自分自身で症状の原因を見つけ出し、病院の無駄な待ち時間の間に、自ら症状を改善できるような知識と技術をつかみ取っていただくためのヒントを掲載しています。

このレポートにより、あなたの将来における不安が少しでもなくなれば幸いです。

株式会社キュアハウス  
キュアハウス鍼灸治療院  
院長 中村幸生